



ESCO News Letter

第4巻 第5号

発行日 2015年5月29日

今回は、
北米大陸！

海外視察情報

製薬業界では、2014年7月に日本がPIC/Sに正式加盟し、国際調和の流れが本格化、食品業界では、GFSIベンチマークスキームを採用する企業が年々増加するなど、製薬業界、食品業界において、製造管理・衛生管理・品質管理等のルールを、国際的に統合する動きが、近年活発に見られます。

弊社では、グローバル企業グループである大塚グループの強みを活かして、欧米の現場での生の最新情報を収集することを目的として、定期的に欧米視察を実施しています。2013年度に実施したヨーロッパ視察に続き、2014年度は北米視察を実施しましたので、その概要をご紹介します。

食品関連 (GFTCラーニングプログラム)

GFTC(The Guelph Food Technology Centre)において、GFSIベンチマークスキームに関するラーニングプログラムを受講しました。その中から、2つのキーワードをご紹介します。

Keyword①: 「スキーム」の定義

英語がそのまま使われることが多い影響か、この言葉に関して十分な理解がされていないと感じました。

「スキーム」=

「監査可能な標準」+「マネジメントシステム」

です。したがってGFSIが認定するのは、あくまでマネジメントシステムを含む品質保証システムであるという点が、ポイントです。

Keyword②: BRC(英国小売協会)

欧州では既に広く浸透しています。北米においても広まりつつあり、今回訪問した工場でも採用しているケースがありました。日本での今後の動向は未知数ですが、今後も継続的な情報収集が必要であると感じました。



この号の内容

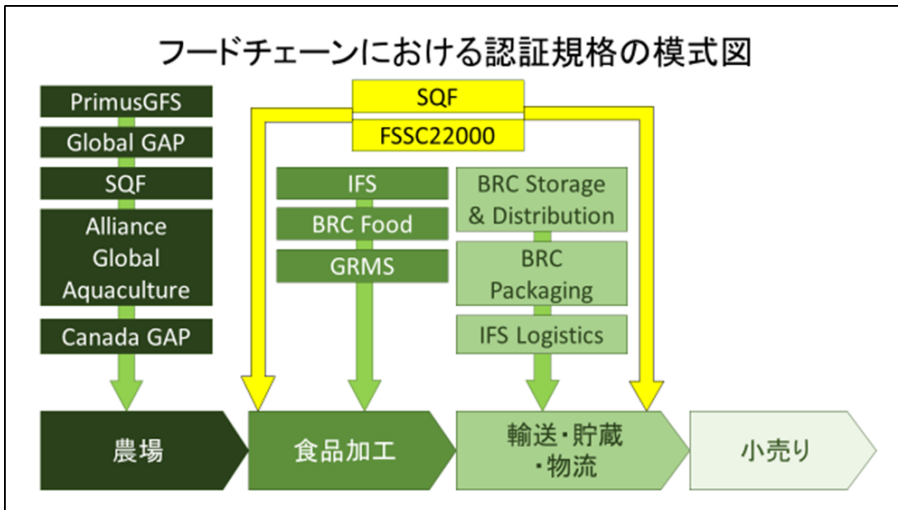
海外視察情報 食品関連 (GFTCラーニングプログラム)	1
食品関連 (製造工場)	2
医薬品関連 視察参加者 column	
モチベーションアップや アイディア創出の工夫事例	3
世界食品安全会議2015	
ついに登場! ESCO641CN ESCO641CNの基本仕様	4

「NSF - GFTC」 The Guelph Food Technology Centre

カナダのトロントにあり、HACCPや各種ベンチマークスキーム等の指導を行っている一流機関。各種研修サービスなどを提供しており、修了証も発行している。



フードチェーンにおける認証規格の模式図



視察参加者 column

今回の視察では、北米における品質保証や衛生管理を肌で感じることが出来ました。その中には、日本との違いを感じたこともたくさんありましたが、その一例として「異物混入」に対する認識があります。

日本における異物混入防止対策は、危害の有無に関係なく厳しい管理をされているケースも見られますが、アメリカでは、衛生管理は非常に合理的に運用されています。例えば、入室手順として高度清潔区域以外では靴の履き替えがないなど、日本に比べて簡略化されていました。

これらのルールは科学的根拠を元に設定されており、日本でもリスクベースの考え方に基づいた、過剰でも不足でもない適切な衛生管理ルールを構築していく必要があると感じました。



新しい世界貿易センタービル



グラウンドゼロ



イースト川とマンハッタン島

食品関連（製造工場）

食品関連の製造工場では、飲料工場と、健康食品工場を訪問しました。

北米でのフードセーフティシステムの実際について、特にGFSIベンチマーク

米国食品安全強化法(FSMA)

2013年の施行以降、仕入先監査、HACCPシステムの導入、フードディフェンス等に関する規定が強化されたため、重視されています。

GFSIベンチマークスキーム採用後の監査の実際

多くのリテラーが納得するスキームが登場したことで、従来個々のリテラーごとに実施していた監査に簡素化の傾向が見られます。訪問先の工場での事例ですが、「以前に比べて監査が半減して、現場の負荷が減り助かっている」との声も聞かれました。

多様な人種が存在する中での教育手法

人種を超えて現場を活性化させるために、モチベーションアップのための様々な工夫が見られました。教育面での困難を予想していましたが、多様な考え方を前提とした信頼関係が構築されている場合も多く、むしろ人種の違いが強みにもなっているように感じられました。

スキームや、米国食品安全強化法(FSMA)の影響、あるいは教育面での工夫について、様々な情報収集をすることができました。

米国でのフードセーフティシステム

アメリカ、カナダでは、日本で近年盛んになっているFSSC22000、SQF以外にも、BRCなどのGFSIベンチマークスキームを採用している工場が多く見られます(割合は、SQFが主流、次いでBRC)。ただし、選択はあくまで顧客(リテラー)の要求に基づいています。今後日本国内においても、業態や事業所の体型に見合ったスキームが広まる可能性を感じました。

人種のサラダ・ボウル、アメリカ文化

昨今、アメリカ文化は「人種のるつぼ」ではなく、「共存しても混じり合わない、並立共存」の意味で、「人種のサラダ・ボウル」と呼ばれることが多いそうです。そして、「人種のサラダ・ボウル」であるアメリカには、異なる文化背景を持つ複数の人種が同じ職場で共同作業するためのノウハウが多くあります。日本においても、ダイバーシティへの取り組みが進むなか、このようなノウハウは大いに活用できる可能性があると感じました。

医薬品関連

医薬品関連では、臨床検査薬の開発を行う研究所と、創薬研究を行う研究所を訪問しました。

PIC/Sへの対応については、特に生物製剤を保管する倉庫において温度管理が強化されるなど、科学的根拠に基づく管理が重要になってくる、との意見が聞かれました。ESCO News Letter 第3巻第1号「医薬品倉庫管理と物流・輸送の品

質管理」でご紹介しておりますとおり、日本国内でも同様の管理が求められています。

リコールの状況については、2013年度の米国でのFDAリコールの大半が、注射剤の微生物汚染であり、経口薬のリコールは過去10年で減少していますが、注射剤については増えている状況とのお話がありました。

モチベーションアップやアイデア創出の工夫事例

今回の視察の中で、アメリカの工場ならではの理念に基づき、従業員のモチベーションアップやユニークなアイデアを創出するための工夫をしている事例が多く見られました。下記にそのいくつかを紹介합니다。

食品工場で見つけた、「モチベーションアップの工夫」

■ 家族を工場見学へ招待

各部屋の入口に、作業風景が顔写真入りで掲示されており、工場見学の際には、普段の仕事ぶりを家族に伝えられるように工夫をしている。

■ Safety Incentive Program

労災防止のアイデアを募集し、良いアイデアには工場長からカードが渡される。月に1回、このカードを使用して豪華賞品などが当たる抽選を実施している。

■ 社内販売は大幅値引き

従業員は特別価格で商品を購入することができる。自分たちで作った製品を自身で使うことによって意識を高めることができる。

■ 工具や消耗品のベンディングマシン

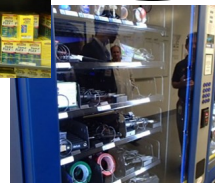
従業員のアイデアで生まれたもの。IDカードで認識できる。



各個人がオーナー、という考え方に基づいています。



労働安全重視の掲示。



安全で安心な製品を製造するために、現場で働く「人」の意識が重要である点は、日本でもアメリカでも同様です。また、今回例に挙げた工場では、労働安全に関わる教育の手法を重視している点も印象的で、「Product Second, People first」（従業員の安全が製品に優先する）という理念をベースに、様々な充実した取り組みが行われていました。

さらに、このような取り組みは、従業員満足度の向上につながるので、フードディフェンスの観点からも重要と言えます。

医薬品関連事業所のオフィスで見つけた、「ユニークなアイデアを生み出す工夫」

■ ホワイトボードが多い

壁全面、さらに移動式の扉の表面もすべてホワイトボードとなっており、従業員がいつでもディスカッションができる環境となっている。

■ 役員室がガラス張り

事務所全体がオープンな環境であることを幹部が率先して示している。

■ 固定機がない

異なる部署間でクロスディスカッションができるようになっている。

参加してきました！

世界食品安全会議2015

Global Food Safety Conference (GFSC) 2015

期 日 3月3日～5日
 開催地 マレーシア；クアラルンプール
 参加国 50か国
 参加人数 915名（事前登録）
 日本からの参加者 61名

初のアジア大会となった本大会では、アジアを中心とした国々における食品安全が議題として挙げられました。

アジアにおける人口問題や食糧問題が、世界の食品安全問題（食品偽装を招くようなリスクなど）に大きく影響しており、アジアの食品安全レベルが世界の食品安全レベルを左右している、といっても過言ではないようです。

私たちが口にする食品の安全を担保するためには、世界的な規模で監視を行う必要があります。農業、漁業、畜産、製造、流通、店舗などフードチェーン全体でのルール徹底、コミュニケーションがこれからの課題のようです。

そのような状況の中でGFSSIスキームの重要性が認知され広がりを見せています。

特に輸入依存型の食糧事情を抱える日本においては、品質を対外的に保証するという意味でもGFSSIスキームが重要になるのかもしれない。

次回 は、2016年3月にドイツ；ベルリンでの開催が予定されています。

会議のキーワード

1. Food fraud 食品偽装
2. トレーサビリティならびにトラッキング
3. コミュニケーション
 [サプライヤー監査
 内部監査 など]
4. リスクマネジメント

高性能捕虫器を取付けば、 防虫管理は万全？！

答えはもちろんNOです。いくら高性能の捕虫器を取り付けても異物混入防止対策としては不十分です。

まだまだ「モニタリング」という意識に乏しい中国では、捕虫器＝昆虫を捕獲するためのもの、と考えられています。そのため「捕虫器を付けたのに昆虫の数が減らない」「捕虫器を取り付けたから扉を開けても問題ない」などと考えがちですが、ご存知のように捕虫器は捕獲目的ではなく、「モニタリング」をして工場の現状を正確に把握するための「手段」です。その結果捕虫することにより異物混入防止の役目も果たします。

北京阿斯環境工程有限公司では、ESCO641CNの販売だけに留まらず「効果的な設置場所」「モニタリングのためのシステムの構築」「従業員の意識改革」等様々なアプローチで異物混入防止のシステムをご提供しております。

中国の工場や取引先での衛生管理でお困りの際はお気軽にご相談ください。

アース環境

総合環境衛生管理で
社会に貢献します

無断複写・複製はご遠慮下さい。

本件に関するお問い合わせは、
03-3253-0640

ホームページもご覧ください

<http://www.earth-kankyo.co.jp/>

ついに登場！ ESCO641CN

北京阿斯環境工程有限公司では、2004年の設立から10年に渡り、上海以北の沿岸部を中心に、中国国内で日本と同等の衛生管理サポートのサービスをご提供してまいりました。

サービスをご提供する中で、お得意先から「捕虫器」について、右記に挙げたような様々なご要望を頂いてまいりました。弊社では、これらのご要望にお応えすべく、2015年3月より、日本で高い評価を受けているESCO641の中国版として、「ESCO641CN」の販売を開始しました。

ESCO641CNの基本仕様

基本仕様は日本のESCO641と同じですが、中国の一般的なコンセントの電圧に合せ、電源は220V仕様になっています。昆虫を誘引するための誘虫灯についても、中国と日本では全長が異なるため、中国で市販されている誘虫灯が取り付けられる仕様になっています。

また、誘虫灯や粘着シートなどの消耗品についても吟味を重ね、日本と同品質のものをご用意しています。

現在、発売開始約2ヶ月ほどですが、大変ありがたいことに中国国内の日系企業を中心に、方々から多くのお問い合わせを頂いております。更に、従来中国国内で販売されている捕虫器とは、全く異なる「ESCO641CN」は、現在中国での実用新案を申請中です。



5方向への設置角度の切替が可能な「設置アングル」もご用意しています。

中国国内の捕虫器に対するご要望の例

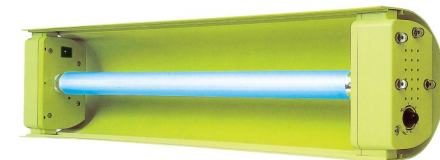
- すぐ壊れてしまう。壊れにくいものを紹介してほしい。
- 昆虫があまり捕まらない。効果的なものを紹介してほしい。
- メンテナンスがしにくい。簡単なものを紹介してほしい。
- 粘着シートが1週間で乾燥してしまう。良いものを紹介してほしい。
- 安全性が不安だ。安全性の高い捕虫器を紹介してほしい。

GMPから生まれた予察型捕虫器

ESCO
641 CN

エスコ・ムシイテCN

温度ヒューズ内蔵・害虫誘引音波発生装置付



寸法	W775×D160×H180(mm)
重量	約2kg
電源	AC 220V 50Hz(電源コード長 1.75m)
音波発生装置	1～5.0kHz
使用環境条件	温度20±15℃ 湿度65±20%
消費電力	22W±15%
付属品	(共用)誘虫灯・グロー球
	アングル + ピン + 吊下げ鎖

中国語の製品パンフレットもご用意しています。
下記までお問い合わせください。

ESCO641CN、中国での衛生管理サポートのお問い合わせ先

山田 春夫(日本語対応のみ)

電話 +86-13810229430

E-mail yamada-haruo@earth-kankyo.co.jp

李 光(日本語・中国語対応)

電話 090-6463-2025

E-mail ri-koh@earth-kankyo.co.jp